

事例 36

ふるさとの宝物～明日を見つめて～

DATA
 場所：青森県中津軽郡西目屋村
 実施者：津軽ダム工事事務所 地域づくり相談室 [TEL (0172) 85-3005]
 参加者：西目屋村立砂子瀬小学校
 実施日：平成10年8月～平成11年12月

関係する分野
 環境 交通 社会 地域 歴史 福祉 健康

背景

津軽ダム建設により水没移転となる砂子瀬小学校において、平成10～11年の2年間で、子ども達にとってふるさととは何かを考え、記録を残し、記憶にとどめるための学習に取り組みました。

内容

カメラウォッチングやマップづくり、写真コンテストなどを行い、各自の「ふるさとの思い出」をとりまとめるとともに、四季それぞれの「ふるさとマップ」や地域の模型を作成しました。その後、体育館で四季の宝物マップ発表会や公開授業、お話を行いました。



ふるさとの宝物みつけた



お話し



四季の宝物マップ発表会



秋のベスト5発表会

ポイント

- 子ども達自らが、カメラウォッチングなどにより、新たな気付きや発見に驚くように、カメラの練習から始めました。
- 授業参観やお話を設け、大人から子ども達にふるさとの良さを伝えています。

成果

二年間の活動を行い、子ども達にとって大変貴重な経験となりました。子ども達にとって、ふるさととは何かを考え、記録に残すことは大変意義深いことです。

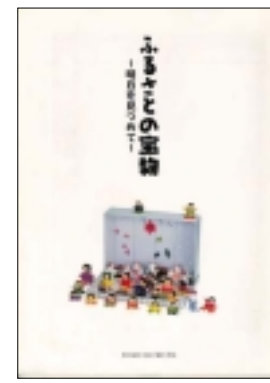
参加者の声

「ぼくは、カメラウォッチングや、宝物マップで三つの思い出があります。一つめは初めてカメラでものをとったとき、二つめは発表会するとき、三つ目はつかさの塔のほんものをみにいったときです。」
 (西目屋村立砂子瀬小学校 3年生)

「私は全校で行った思い出の場所を写真に残せて本当によかったと思っています。そして今まで写してきたいろんな景色も私の大事な宝物になりました。」
 (西目屋村立砂子瀬小学校 6年生)



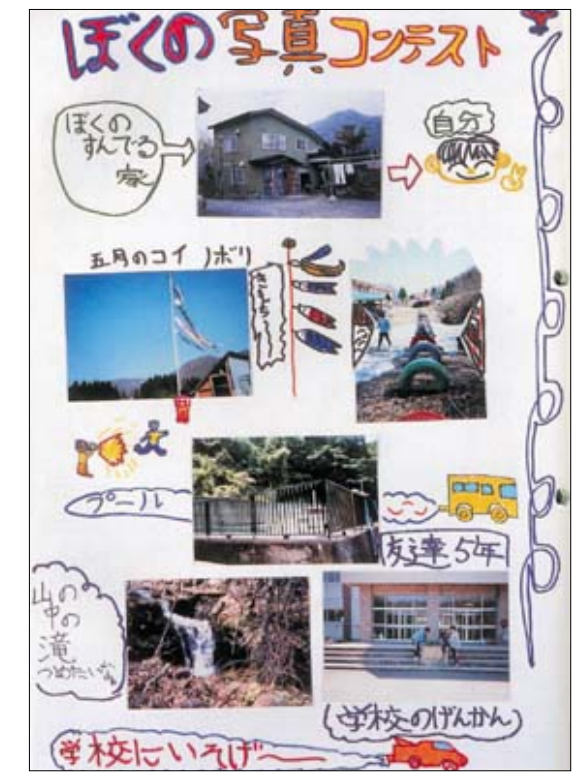
みんなの力を合わせてつくった町の模型



調査結果を冊子にして残します



カラフル橋調査報告書



お気に入り風景

次のステップに向けて

- 自分たちのふるさを見つめ直すとともに、これからのふるさについて学習することも考えられます。